

会 議 録

会議の名称	第1回弥富市総合計画審議会
開催日時	平成29年8月25日（金） 開会：14時30分 閉会：15時55分
開催場所	弥富市役所十四山支所3階第4会議室
出席者及び 欠席者	出席者：釜田公良（会長）、入江容子（職務代理者）、手嶋正章、岡村常良、 鬼頭由美子、伊東信行、八木輝美、竹川常夫、鈴木篤、本間士朗、 安井和美、大西英一、東嶋とも子、佐藤仁志、林伸一（順不同） 欠席者：なし 事務局：市長、副市長、教育長、総務部長、民生部長、開発部長、教育部 長、議会事務局長、秘書企画課職員3名、ランドブレイン(株)2名 傍聴人：1名
会議内容	1 開会 2 市長あいさつ 3 委員紹介 4 会長の選任、職務代理者の指名 5 市長の諮問 6 報告 （1）第2次弥富市総合計画の策定方針について 7 その他 8 閉会
会議資料	次第 委員名簿 配席表 策定方針 資料1 審議会条例 2 策定委員会設置要綱 3 傍聴要領 4 アンケート票 5 ワークショップ募集 6 愛知大学記事
発言者	会議の経過（議題・発言内容等）
事務局（秘書 企画課長）	1 開会 定刻の時間となりましたので、ただ今より第1回弥富市総合計画審議会 を開催させていただきます。 本日、司会を務めさせていただきます 秘書企画課長の佐藤です。どうぞ よろしくお願ひします。 審議会に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。まず、「次第」、

<p>事務局（秘書 企画課長）</p>	<p>「委員名簿」、「配席表」、「第2次弥富市総合計画の策定方針について」、「総合計画審議会条例」、「総合計画策定委員会設置要綱」、「弥富市総合計画審議会傍聴要領」、「第2次弥富市総合計画策定に向けたアンケート」、「市民ワークショップのちらし」、及び「中日新聞の記事」をお配りしております。不足資料がございましたら挙手をしてお申し出願います。</p> <p>なお、当審議会は、弥富市総合計画審議会傍聴要領の規定によりまして、会議を公開とさせていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。</p> <p>（傍聴者入場）</p> <p>早速ですが、次第に基づきまして進行させていただきます。次第の2「市長あいさつ」に移ります。</p> <p>服部市長、よろしくお願ひします。</p>
<p>市長</p>	<p>2 市長あいさつ</p> <p>皆さん、改めましてこんにちは。夏休みももうすぐ終わりかなというような状況でございます。子どもたちも、楽しい楽しい夏休みもあと1週間もないような状況になっております。しかしながら、最近の天候というのは、大変残暑が厳しいような状況でございます。また、ゲリラ豪雨等自然災害もあちこちで起きておりますように、なかなか安定しない天候でございますけれども、そんな形の中で少し落ちつきのない夏の終わりかなというふうに思っておりますけれども、今日は皆様方には大変公私お忙しい中、私どもの第2次総合計画の審議会ということの中で、第1回目の会合のご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。また、委員の皆様方には、それぞれのお立場で私どもの行政に対しまして大変なお力添えとご協力をいただいておりますことを、この場を借りまして厚く感謝する次第でございます。また、今回審議会委員の就任をお願い申し上げましたところ、快く受けていただきましたことに対して感謝申し上げる次第でございます。</p> <p>私ども弥富市は、平成18年4月1日に合併をいたしまして、旧弥富町、そして旧十四山村というところの自治体が合併したわけでございます。そして、新弥富市が誕生して以来、11年と半年ぐらいになるわけでございます。その間、平成21年から今の第1次総合計画が開始になりまして、前期5カ年計画、そして後期5カ年計画という形の中でスタートさせていただきました。第1次総合計画は、平成30年まで、来年度までが一つの区切りになっておるわけでございますけれども、皆様方にこれからご審議いただきますのは第2次総合計画、平成31年から向こう10年に対するまちづくりのさまざまな分野において、ご協力、ご指導をいただきたいというふうに思っております。</p> <p>ご承知のように、弥富市は農業振興地域という形の中で、全体面積、水田と</p>

畑等を含めると約 2,000 ヘクタール近くの耕作面積があるわけですが、そうした形の中でスタートしたまちではございますが、昨今では大きく変わってまいりました。その大きな一つの要因といたしましては、私どもは先人の皆様の大変なご努力で鍋田ふ頭と、そして弥富ふ頭の 2 本の港を持っているわけでございます。そうした形の中で、その港の、名古屋港を取り巻く港の役割と同時に、その背後地にさまざまな企業に来ていただきまして、こういった形の中でこの 10 年大きく変わってきたと言っても過言ではないかなというふうに思っております。名古屋港の一翼として、特に東南アジア、中国等の輸出入の役割をさせていただいておるところでございます。

また、大きな企業といたしましては、川崎重工さんに来ていただいております。これは愛知県が大村知事のほうから特区構想という形の中で、航空宇宙産業という形の中で力を入れていこうという今考えがあるわけですが、その一翼を今私ども弥富市は担わせていただいているというような状況でございます。ボーイング社のボーイング 787 を主力といたしまして、昨今では 777、あるいは 777X という新しい機種 of ボーイング社の飛行機を、その胴体部分を作らせていただいているというような状況でございます。ますますこういった形の中で、私たちの将来に対しては、こういった大きな企業と一緒に成長、発展していきたいというような状況でございます。

行政を取り巻く環境の中では、それぞれの機関があるわけですが、1 つは教育の機関があるでしょう。1 つは社会保障、いわゆる民生の機関もございまして、そして、さまざまな公共事業等でまちづくりをしていく開発部門というところがあるわけですが、このバランスの取れた成長をしていくのがやはり我々の役割かなというふうに思っております。

しかしながら、それぞれの部門で問題を抱えてきておるわけですが、教育問題につきましても、少子化ということがございまして、これから学校の再編成をどうしていくのか、あるいは子どもたちが学ぶところをどうしていくんだということが大きな課題にもなっております。

また、民生部門におきましては、高齢化社会という形の中で、いわゆる社会保障と言われる医療、介護、福祉、そういった形のもので、しっかりと私たちは扶助費という形の中で支えていかなきゃならないというようなことがございます。私たちは人口 4 万 4,000、今 500 名近くでございますけれども、65 歳以上が 1 万 1,000 人を超えました。そうした形の中で、高齢化率も 25% というふうな状況で、ほぼ全国的なレベルという形と言っても過言ではないというふうな状況です。これからますます高齢化社会ということがございまして、こういった高齢化社会をどう支えていくかというのがいわゆる民生部門における大変な課題でございます。

また、開発部門という形の中におきましては、まちづくりをしていく形においては、市民の要望が一番強いところがございます。道路をどうしていかなきゃならないかということもあるわけですが、一方、河川等を含めたと

市長	<p>ころの橋の橋梁化等においても、やはり長寿命化というものをやっていかなきゃならないというようなことで今騒がれておるわけでございます。そうした形の中で、高度経済成長時代に作ったものは大変老朽化をしてきているというような形で、どうこれを取り組んでいくんだという形のもので大きな課題ともなっておるわけでございます。</p> <p>そんなことで、第2次総合計画の中でさまざまな分野において皆様方とご協議させていただきながら、その計画を策定していきたいというふうに思っておりますので、各委員の皆様方にはそういった状況の中において忌憚のないご意見をいただきながら、しっかりと第2次総合計画を策定していきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げまして、私の冒頭の挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にご苦労さまでございます。</p>
事務局（秘書 企画課長）	<p>3 委員紹介</p> <p>続きまして、次第3の委員紹介に入りたいと思います。名簿順に一言自己紹介をお願い致します。</p>
各委員	(委員 自己紹介)
各職員	(職員 自己紹介)
事務局（秘書 企画課長）	<p>4 会長の選任</p> <p>次に、次第4の会長の選任、職務代理者の指名に移らせていただきます。会長につきましては、弥富市総合計画審議会条例第3条の規定により、委員の互選により定めるとされておりますので、委員の皆さん、よろしくお願いいたします。</p>
事務局（秘書 企画課長）	<p>「事務局一任」の声</p> <p>事務局一任の発言をいただきましたが、特にご意見がなければ、事務局といたしましては、中京大学経済学部教授の釜田公良先生にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。</p>
事務局（秘書 企画課長）	<p>「異議なし」の声</p> <p>ありがとうございます。当審議会の会長には釜田公良先生が選出されました。釜田会長、市長の隣の会長席へご移動願います。</p> <p>続きまして、釜田会長に職務代理者の指名をしていただきます。</p>

会長	職務代理者には、愛知大学法学部教授の入江容子先生をご指名させていただきます。入江先生、よろしくお願いします。
事務局秘書企画課長)	入江先生、釜田先生の隣の席にご移動願います。それでは、釜田会長、職務代理者の入江委員につきましては、一言ご挨拶をお願いしたいと存じます。
会長	<p>よろしくお願いします。今、国でも地方でもいろいろな話をするとき、まず前提条件として挙げられるのが少子高齢化、人口減少、そして財政危機なんですね。今月 10 日に開かれた本市の行革推進委員会でもまさにそうでした。</p> <p>人口減少につきましては、2040 年には全国 1,800 市区町村の半分の存在がどうなるかという推計結果も出ています。</p> <p>また、財政問題については、5 日ほど前まで東京で IIPF という財政学の国際学会が開かれていたんですけれども、その学会というのは毎年 1 回世界のどこかで開かれるもので、今年は東京に順番が回ってきた。私は、日本財政学会という国内学会の理事を務めておりますので、IIPF の準備にも少しかかわり、また、当然それにも出席してまいりました。IIPF の共通テーマが fiscal、つまり財政再建だったんですね。つまり、日本だけではなく、世界の多くの国が財政赤字の問題に直面していると。だから、財政再建というのが世界の共通の課題になっているということだと思えます。しかし、政府債務残高の対 GDP 比というのを見ると、主要国中最もその数字が高いのが日本なんですね。だから、日本は世界の中でも財政状況が最も悪い国だということになるわけです。</p> <p>そうした状況の中で、夢が膨らむような未来を想定するのは難しい。将来の計画を立てるといっても、どうしてもそういう厳しい状況をいかにしのぐかという守りの姿勢というか、閉塞感が漂うようなものになってしまいがちなんだと思うんですね。しかし、弥富市については、もちろんそうした少子高齢化や人口減少や財政危機という問題が例外ではないということは市長さんがおっしゃっていたとおりではあるんですけれども、それでも、弥富市について言えば、2013 年から人口減少に転じているといっても、まだ人口構成は全国平均から見れば若いです。財政に関しましても、健全化判断比率という全ての自治体が公表しなければならない 4 つの財政指標があるんですけれども、これも良好な数字を示しているんですね。</p> <p>また、私は、この点について皆さん、あるいは弥富市役所はどのようなお考えなのかというのはあるんですけれども、今回の計画期間に含まれる 2027 年に東京－名古屋間でリニア新幹線が開通する、これは非常に重要なことじゃないか。弥富市にとってもこれは非常に大きな出来事であると思います。名古屋に近接する市町村というのは複数あるわけなんですけれども、リニアが来る名駅にこれだけ近いというのは弥富市の大きなアドバンテージであって、人口減少という話がありましたけれども、逆に人口流入や、企業進出など十分期待できるんじゃないかと思えます。ということで、第 1 次の総合計画を策定したと</p>

会長

きとは、もしかしたらかなりシナリオを書き換えられる可能性を秘めているのかなというふうに考えています。

しかし、棚ぼたを待っているだけではだめですので、そのチャンスを自分からつかみに行かなくてはいけないということです。つまり、弥富市の場合は、希望が持てる将来計画というのは可能だと、そういう可能性があると思いますので、もちろん行財政改革など足元をしっかりさせておくというのは一番大事なことでありますけれども、さっき申し上げたような守りの姿勢ではなく、前向きでかつ実効性の高い総合計画というのを策定すべきではないかというふうに考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

職務代理人

職務代理人に指名されましたので、謹んでお受けいたしました。どうぞよろしく願いいたします。

今の釜田先生のお話と私もほとんど同じ意見でありますけれども、第2次の総合計画を策定するということを、弥富市さんにおいて大きな契機にさせていただければいいのではないかと考えています。社会的には、やはり人口減少ということは避けては通れない。これはどこの自治体もそうです。社会減、自然減ともに緩やかではあっても避けて通れないというようなことがまず大前提としてある。その中で、財政フレームということも前提になってまいります。

こういった前提条件をまず押さえた上で、それから、前の第1次の総合計画の評価をきちんとしていただいて、それを踏まえた第2次の総合計画というものが策定されるべきではないかというふうに思っております。第1次の評価については、計画と実績がどれだけ乖離していたかということを見極めることが重要ではないかというふうに考えております。後で事務局からのご説明があると思いますけれども、第2次の総合計画の策定の基本的な考え方として柱を4つ挙げていらっしゃると思いますが、そのトップに市民との協働ということが挙がってまいります。それと、私としましても、これからの行政は市民との協働というのは大変大きな命題になってくるというふうに考えていますが、何のための市民協働かということをごここで一度皆様方に確認していただいたほうがいいのではないかとこのように思っております。

昨今の行政のはやりといえばはやりですけれども、なぜ市民の方々とともに行政が汗を流すのかということと言いますと、究極的にはやはり住民自治の実現ということになると思います。ということは、つまり、市民の方々に、今日もここに公募市民の方がいらっしゃいますけれども、知恵を出していただく、実際に市民の方々に地域の課題を我が事にしていただくということが中心になるのであって、それが、一人一人が主役として活躍できるような市民をこれから生んでいくということにつながる。それが人口減少ということをお考えたときのこれからのまちの作り方の一つではないかというふうに考えております。

それからもう一点は、私も釜田先生と全く同じ意見ですが、実効性のある計画をぜひとも今回皆様と一緒に作っていただきたいというふうに考えており

職務代理者

ます。そうしたときに、総合計画というのが、今回弥富市さんが想定されていらっしゃるのがいわゆる3層構造というものですけれども、基本構想、基本計画、実施計画という、これは旧自治省のほうでの枠組みになりますが、こういう形を上から作っていくとなかなか難しい点がありまして、総論ではそんなに反対意見とかも出ない、大きなビジョンとしては皆様方の反対意見も出ないんですけれども、それを実施計画に細かく落とし込んでいくというところで乖離ができてしまうということがややもするとあるというふうに考えますので、そのところの実効性をまずはどうするかというところで言いますと、やはりきちんと位置づけ、具体的な事業を想定しつつ、長期計画を持って考えるという、一方向ではなくて、下からも上からもというような方向での議論というのが望ましいのではないかとこのように考えています。

また、事業の評価の仕組みということも、この計画の実効性を高めるということの上のほうに来ると思っておりますけれども、評価の仕組みとの連携ということも想定して入れつつ、この基本構想、基本計画というところの議論を進めていければというふうに思っております。

また、第2次総合計画の基本的な考え方の柱の一つに、行政改革が挙がっておりますけれども、これにつきましても、それほど深刻な状況ではないというのは釜田先生からも話がありましたが、しかし、弥富市さんにおいても行政改革待ったなしだというふうに思っております。そのときに、何のための行革かということをお一人お一人が自覚なさること、それが市民の方々が将来的にこのまちがどういう形になっていくか、10年後、20年後どういう形になっていくかというところときちんとリンクをして、つまり、長期の財政計画等とリンクして議論をされるべきだというふうに考えております。また、このときにも日々の事業の評価の結果の反映というのが望ましいというふうに考えております。

いずれにせよ、総合計画というのは市の一番根幹に来る重要な計画ですので、ここにいらっしゃる皆様方の知見を集結していただきまして、ぜひとも前向きな議論が一緒にできればというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

5 市長の諮問

事務局（秘書
企画課長）

続きまして、次第の5の市長の諮問を行います。

（市長より鎌田会長へ諮問）

市長

弥富市総合計画審議会会長・鎌田公良様、第2次弥富市総合計画について諮問させていただきます。弥富市総合計画審議会条例第1条の規定に基づき、第2次弥富市総合計画の策定について審議会の意見を求めます。どうぞよろしくお願い致します。

事務局（秘書
企画課）

今後の進行につきましては、釜田会長の取り回しでお願いします。

会長

6 報告

それでは、次第6の報告に移ります。事務局より説明をお願いします。

事務局（秘書
企画課）

それでは、第2次弥富市総合計画策定方針について説明をさせていただきます。お配りしていますA4、3枚、左とじのものになります。よろしいでしょうか。こちらのほうを説明させていただきます。

まず、第2次弥富市総合計画の策定方針というところで、今日8日に副市長を委員長とします市内の組織であります総合計画策定委員会、そちらのほうで第2次の策定方針のほうをこのように決定をさせていただきました。

まず表紙をめくっていただきたいと思います。大まかに5つのポイントでまとめてございます。2ページ、1番、策定の目的と位置づけということで、弥富市は平成21年度から第1次弥富市総合計画に基づきます各種施策を展開し、まちの目指す将来像「みんなでつくるきらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間」と掲げまして、目標を達成するために計画的なまちづくりを実施してまいりました。第1次計画につきましては、平成30年度をもって終了することでありますことから、平成31年度を初年度といたします第2次総合計画を策定いたしまして、総合的、計画的なまちづくりの指針とするためのものです。第2次総合計画につきましても、現行計画と同様に市全体及び各分野の今後の方向性を示すものでありまして、市民と行政との共通目標となるとともに、全ての行政活動の基本となり、その重要性は変わるものではないとの認識から、今後とも市の最上位計画として位置づけてまいります。

2番、計画の構成と期間ということで、先ほど入江先生がおっしゃられましたように、弥富市におきましては3階構造ですね。一番上が基本構想、真ん中に基本計画、実施計画の3つで構成をしてまいります。それぞれの内容と期間につきましては、点線の枠に書いてございますように、基本構想は本市の将来を見据えたまちづくり、行政運営の基本的な理念や方向性を目指すもの。基本計画としましては、基本構想に基づき実施する具体的な施策の内容を示しております。実施計画につきましては、基本計画に示す施策ごとに実施する具体的な事業、ここには予算ですとか期間を表すんですけれども、こちらの3階構造でまいります。

ここに別途策定とあるんですけれども、計画の冊子としましては基本構想と基本計画が一体的に一冊にまとめられたものとして発行いたしまして、実施計画は別立てで印刷いたします。というのは、その下の図を見ていただきますと、基本構想は10年間の計画期間になります。ですので、平

事務局（秘書
企画課）

成 40 年となる。基本計画は 5 年ごとに見直しをいたします。前の 5 年を前期基本計画、後半部分は後期基本計画で 5 年になります。今回の策定委員会の中で議論しますのは、10 年の基本構想と前期基本計画の 5 年間ということになります。実施計画におきましては、実際の予算と計画期間等も入ってまいりますので、これは計画期間を 3 年ということにして、毎年計画のほうを見直しながら作っていくというものになっております。ですので、この 3 つの構成でまいります。

次をご覧ください。先ほど入江先生からもお話がありましたように、第 2 次総合計画の基本的な考え方ということで、簡単に読ませていただきます。第 1 次計画、現行計画の策定から早 8 年ほど経過しまして、その間人口は平成 28 年をピークに減少傾向に入っております。人口減少、少子高齢化の進展や、安心・安全意識の一層の高まりなど、まちづくりを取り巻く状況は変化を遂げています。今後弥富市の個性や特徴を大切にしながら、市民、地域の絆をさらに深め、弥富市としてのアイデンティティを一層強固なものにしていくための道筋を示すことが必要であります。

こうした観点に立ちますと、第 2 次総合計画策定に当たっての基本的な考え方は、以下の 4 つといたします。黒い丸ボチの 4 つなんですけれども、1 つ目は市民の参画と行政との協働による市民主体を基本とした計画、2 番目の丸として弥富らしさを最大限に生かし、明るい未来を築く計画、3 番目として一層効率的な経営と成果の点検、評価が行われる計画、4 番としては市民の目線を重視した一層分かりやすい計画という 4 本立てにしております。

内容を簡単に 1 番目から説明していきますと、今後のまちづくりでは住民の参画、協働意識を生かした地域力の維持、強化が求められるとともに、生涯にわたって市民が活躍できるまちの実現が求められます。自立した弥富市を作り上げ、継続的に経営していくためには、社会経済情勢や市民ニーズの変化を的確に捉え、市民と行政とが信頼関係を深めつつ、協働のまちづくりを進めていくことが一層強く求められます。このため、次期計画におきましては、策定段階から効果的な市民参画、協働の取り組みを行うとともに、計画の策定後にも市民と職員が主体的に参加し、市民が主役になって行政運営に参画できるよう、市民の主体的な参画と熟議を目指した計画といたしますということが 1 つ目です。

2 つ目としましては、本市は金魚に代表される特産物をはじめ、交通条件による大都市への好アクセスや産業拠点なども有する魅力あるまちです。また、人口 4 万 4,000 人余りで推移しており、極端な人口減少には至っておりません。しかし、少子高齢化は確実に進行し、若い世代の転出傾向なども人口ビジョン等からも分析をされております。このため、本計画は平成 28 年 2 月に策定した弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略の理念と整合性を図りつつ、地域特性、資源を最大限に生かし、弥富市で住み続

けたい、子どもを産み育てたいと思われる、選ばれるまちの実現を目指した計画といたします。

3 目としましては、本市を取り巻く環境が厳しさを増す中、選択と集中の視点の下、行財政改革や行政評価との連動性や公共ストックの活用の視点に立ち、より一層効率的な行政経営に向けて、また、成果を点検、評価し、施策や事業の見直しを行える計画といたします。

4 番につきましては、市民の方が一層分かりやすく親しみやすいものとして、市民への訴求力を持った親しみやすい計画としたいというふうに考え方を4つにまとめさせていただきました。

続きまして、4 ページへ移ります。4、計画の策定体制、こちらも読ませていただきます。本計画の策定に当たって、協働のまちづくりの実践を念頭に置いた市民、大学生及び市職員の参画によるワークショップ組織を設置します。あとは、全庁的な調整等が必要なさまざまな作業が発生するため、庁内の全ての部門が積極的に関与し、全市的な体制をもって当たることといたします。庁内には、先ほど言いました、8月8日に第1回を開催しておりますけれども、総合計画策定委員会を設置するとともに、関係各課担当職員によるシートの記入や各課ヒアリングの実施及び有識者による職員研修を通じまして、職員の参画による計画作りを行います。

ここに職員研修等と書いてあるんですけれども、今年は2回職員研修、総合計画策定についての研修を行う予定でございます。第1回目は8月4日に行いました。職員の参加者は70名弱であります。これは、テーマとしては、「総合計画の主要な要素とこれからの行政運営」というテーマで、愛知大学の野田教授を講師にお招きして研修を行っております。2回目はこの秋、10月31日になりますけれども、名古屋大学大学院の恒川先生をお招きして、「まちづくりとしての公共施設マネジメント」というテーマで、これも職員を対象に研修を行ってまいります。

あと、公募市民を含む総合計画審議会の設置をはじめ、市民、中学生を対象としたアンケート調査、愛知大学さんとの連携、パブリックコメントの実施などを通じまして、市民参画機会を多面的に確保してまいりたいと考えております。

真ん中の図を見ていただきますと、一番上が市長という四角があるんですけれども、今日お集まりの会議はその下、総合計画審議会という、ここが今この場の会議になっております。ですので、先ほど、市長から審議会のほうへ矢印が下を向いておりますが、諮問という形で総合計画に対する諮問がなされております。

審議会のほうでこういった資料を基に議論していくかということで、総合計画の周りに点線で書いてありますものを活用しながら議論を進めていきたいなと思っております。まず左側のオレンジ色をご覧ください。一番上に市民等アンケート、こちらですね。一般市民、中学生というふうに書

事務局（秘書
企画課）

いてあって、まちづくりに対する意向や満足度、提案等を伺うということで、8月初旬に市内の16歳以上の方を無作為に3,000名の方にアンケート調査をお送りして、今月末が回収期限になっております。中学生の方、若者の方の意見も聞きたいということで、市内の3中学校2年生の方全員に教育委員会を通してアンケート調査を実施し、こちらのほうは回収は全て終わっております。

その下、愛知大学さんとの連携ということで、先ほど入江先生がお話しされましたので、詳細については割愛させていただきます。

あと、第2次総合計画の基本構想、基本計画ができた段階で、市民の皆様はこの2つの計画の素案をお示しして、意見募集を図ってまいりたいと考えております。

総合計画審議会の下が一番大きなオレンジ色で囲まれているところですが、こちらは市民ワークショップということで、今日お配りした資料ナンバー5のほうにワークショップの募集のチラシを入れさせていただいております。こちらは、弥富市の総合計画の基本構想の将来像の実現に向けたまちづくりの方向性に関する意見を出し合う場ということで、今現在募集中であります。締め切りは8月31日になっておりまして、今のところ募集人数としては、今日現在で34名の方に申込書を出していただいております。

そういったワークショップですとか、アンケートとか、愛知大学さんとの政策提言ですとか、パブリックコメント等を活用しながら、総合計画の基本構想、基本計画のほうをまとめていきたいといいますが、まとめていただくようお願いしたいと思います。

最後のページをご覧ください。5番として計画策定のスケジュールをこちらのほうに図の方で示してございます。まず、表の真ん中あたり、真ん中の上ですね、ブルーの四角で書いてあります現行計画の進捗状況の確認及び評価ということで、先ほど入江先生もおっしゃられましたように、まず第1次総合計画、現行の計画の目標と実際の実績、それがどれだけ先ほどおっしゃられたように乖離しているか、なぜそれが到達できなかったのかということの評価、そういったものをしていく作業が8月から10月半ばぐらいまでになっております。実際これは秘書企画課のほうから全課へ第1次総合計画の進捗状況についてシートをお配りして、進捗状況、なぜ進まなかったか課題、積み残し、そういったものを確認して、評価し、それを基に第2次総合計画のほうへつなげていくというような形で、9月初旬に各課へ照会をして、10月半ばには取りまとめて、次回の審議会のほうでご報告できればというふうに考えております。

その隣に市民等アンケート調査の実施、集計ということで、こちらも10月の上旬ぐらいで集計が終わるということになっておりますので、第2回、右側に紫とブルーで委員の委と審議会の審と書いてありますので、委と書

事務局（秘書
企画課）

いてありますのは副市長を委員長とする策定委員会、これは市側になります。審と書いてございますのは今お集まりの審議会の回数になってまいります。ですので、第 2 回目ときには現行計画の進捗状況の確認、評価の結果と市民等アンケート調査の集計、分析をご報告できればというふうに考えております。

先ほども説明しましたその下、市民ワークショップ、愛知大学大学生の論文発表会というものに関しては、第 3 回の審議会のほうで報告をさせていただきながら、一番左側にあります 29 年度の 11 月ぐらいから始まってきます基本構想素案、この四角があるんですけれども、現行計画の進捗状況の評価ですとかアンケート結果、市民ワークショップから出た意見、愛知大学さんの論文、政策提言等を基本構想に反映させていただきまして、第 3 回目の基本構想の審議会でのご議論という形に持っていきたいと考えております。

平成 30 年度に次は入りまして、30 年度につきましては、基本計画素案の策定に入ってまいります。4 月に第 4 回目、7 月に 5 回目ということで、このときに基本計画についてご議論をいただきたいと思っております。それが終わった後、8 月に基本構想と基本計画につきまして、市民の方にパブリックコメントということで意見募集を 1 カ月間かけて行いたいと考えております。

その下になりますが、パブリックコメント等の意見を両素案に反映して、調整しまして、原案という形に持っていきまして、目標といたしましては総合計画の基本構想を 30 年の 12 月の市議会のほうで議決をお願いするという形に持っていきますので、11 月には基本構想、基本計画について審議会のほうから市長への答申ということに予定をしております。

その後は、実施計画の策定ということで、役所側で実施計画について各課に調査をかけ、実施計画のほうを策定してまいります。3 月議会のほうでは、第 2 次総合計画の本冊のほうをご報告できる予定をしております。

なお、このスケジュールにつきましては、作業の進捗の早い遅いが出てくるかも分かりませんので、このとおりにいくとは必ずしも申し上げられませんが、おおむねこのような 2 カ年の計画で進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

説明のほうは以上でございます。

会長

ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

手嶋委員

すみません。全体、大筋はいいと思いますけれども、総合計画の策定ということに関してはこれで私もいいと思うんですけれども、先ほど釜田先生、入江先生、お二方とも実効性のある計画というお話、コメントも強調されたと思うんですけれども、いわゆる 3 層構造の自治省が進めたもの、

手嶋委員

総合計画というスタイルだと、要は作りっぱなしになる可能性が非常に高いわけですね。5年たって、後期の総合計画を策定する。そこで改めて見直して、新たな方向性という形でまとまる。そして、またそこで作りっぱなしになるということが往々にして起こります。

そうすると、市民の側から見ても、市役所は一体何をやっているんだというのが非常に分かりづらいというようなことが多々あるかと思うんですね。そういう意味では、特に実施計画のところでローリングシステムを導入しているということであれば、毎年毎年市役所の内部で総合計画に即して実施計画の見直しをしているということになるわけですから、その段階で外部といいますか、新たに委員会等を設置するなりして、少なくとも年に一度は見直したローリングシステムについて、新たな実施計画についてそれで妥当なのかどうか、そして、過去1年の実績についてそれが妥当なのかどうかということを検証するという作業が必要なのではないのかなというように思います。

そういう意味で、3層構造の実施計画のところに関しては、毎年何らかの形で外部的なチェックを入れていくというふうなことを盛り込んだ形で基本方針を立てていただけるとありがたいかなと。そうすると、実効性というものが担保できるのではないかという具合に思いますけれども、いかがでしょうか。

会長

それでは、どなたにご回答いただけますか。

事務局（秘書
企画課）

担当者としてご発言させていただきます。手嶋先生がおっしゃられますように、今後の計画につきましては、成果目標ですとかそういったものをきちんと設定する必要があります。目標設定に関しましては、当然役所側が立てた低いハードルを設定して、目標を達成したということでは、計画の目標にはなりませんので、先ほど先生が言われましたように、評価に関してはやはり第三者の方の評価というのがないと、内部での評価ではお手盛り状態になってしまうという可能性もございますので、そういったものも参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

市長

私の立場からもぜひお願いをしたわけですが、実は自分の任期の中で第1次総合計画の当初の段階から私は担当させていただきました、実施計画につきましては前期5年計画、後期5年計画ということ、今回の第2次もそうなんですけれども、その進捗とチェックという形のものについては、私ども職員の間ではやっておるわけですが、そのときに、外部の皆様方の委員、その当時の審議会のメンバーさんには入っていただけてなかったというようなことも反省としてあるかなと思っておりますので、皆さんで作っていただいた審議会の策定計画でございま

市長

すので、実施計画の中においても、皆様方にお許しをいただけるならば、そういったようなスケジュールをきちんと作って、チェック・アンド・ゴーというか、そういったものが私としてもお願いをしていきたいというふうに思うところでございます。

会長

ありがとうございます。実施計画に関しては、毎年部会などを通じて第三者の評価を得ながら見直しを進めるという形で検討していただければと思います。

それでは、その他ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

私のほうから1点、入江先生が強調されていた現行計画、第1次総合計画の評価、これはまず最初に今回の仕事をスタートする上で一番大事だと思います。横井さん（事務局）が説明されていて、もちろんスケジュールも最初のところに組み込まれているわけですが、2つ伺いたいことがあります。5ページの表を見ますと、現行計画の確認、評価というのが直接につながっているのが基本計画のところなんですね。確かに具体的に評価をするというのが現行の総合計画の中の基本計画部分になると思うんですが、基本計画の上にもまず基本構想があるわけですから、基本計画に対して評価を下すということになると、当然基本構想にもその評価が反映されてこなきゃいけないわけですね。基本構想のところにも今の第1次総合計画の評価というのを反映させる形というのは、どのように考えられているのかということ。

会長

もう一つは、これは手嶋先生のお話ともちょっとつながるのかもしれないんですが、現行計画の評価はもちろんこの委員会で第2次総合計画を策定する上でも重要な、要するに総合計画の策定というのはPDCAサイクルのPなので、第1次の総合計画、つまり1個前のサイクルのCAをやらないことにはPができない。ちゃんとPDCAサイクルを回すようにしなきゃいけないということになると思うんですが、ここで当然それをチェックしなきゃいけないわけですが、現行計画の評価、あるいは進捗状況を市民の方に開示するというか、そういうことについては何かお考えになっているでしょうか。

以上2点ですね。

事務局（秘書
企画課）

1点目の基本構想の評価につきましては、実施計画の内容についての評価はしていくんですが、評価だけではなく、実施計画を類型でまとめたその上の基本計画、基本構想についても、まとめた段階、それぞれの実施計画の評価において基本計画、基本構想ということで評価はしていく予定であります。下から積み上げていって、全体的にどうだったかというような建て付けにはなっております。

あと、2点目につきまして、現行計画の第1次のC、チェックとドゥーを

事務局（秘書
企画課）

した結果を市民に公開したらどうかという先生からのご発言ですけれども、事務局としてはその辺は実際に考えておりませんでして、検討させていただきたいと思っております。

職務代理者

すみません、今の点に少し関連して、私からもお願いというか質問というか伺わせていただきますけれども、策定のスケジュールのところですが、基本構想の素案が11月から2月までの間で一応固まって、それを受けて基本計画の素案が固まるという流れになっておりますけれども、計画の3層構造から言うと、この流れは非常に計画論としては正しいんですけれども、これをそのとおりにやってしまうと、先ほどもちょっと申し上げましたが、ビジョンのところではそんなに反対が出ないわけですよ。

まちをこういうふうにしていきたいという大枠のところでの議論はわりとふんわりとなるんですけれども、それを実効性のある計画にしようと思うと、どうやって具体的に落とし込むかというところで言いますと、下の個別の計画、あるいは分野別の計画ときちんとリンクされていないと、実のある基本構想にはならないと思っています。ですので、基本構想の矢印がずっと下がってしまっていて、基本計画の素案と横で矢印がつながっているのが30年6月位なんですけれども、ここの作業に大変期待を私はしているんですが、ぜひこのところでもう一度基本構想の素案に立ち返って、修正もあり得るといふところでの柔軟性をお認めいただければなというふうに思っております。がちがちに固めてしまうと、それに束縛されるというところもありますし、個別計画、それから分野別の計画の中でも優先順位、プライオリティに応じてそれをどう盛り込んでいくかという話になると思いますので、その点のリンクの作業というのをぜひしていただければなというふうに思っています。

それから、今の評価の話なんですけれども、市民に向けての公開というのはまだ考えていらっしゃらないということですが、第2次総合計画の策定の機会をぜひ職員の方々にも契機にさせていただきたいと思うところがあるのは、評価というどうしてもその事業を担当した方の評価ということで捉えがちになるんですけれども、そうではなくて、客観的に、純粹にその事業、あるいは施策に対する評価であって、それを次の計画にどう生かすかというところを職員の方々ぜひ持っていただいた上で、説明責任を住民に対して果たすという点からすると、公表されてしかるべきなのかなというふうに思っておりますので、ぜひその点で前向きなご検討をお願いしたいと思います。

事務局（秘書
企画課）

先ほど基本構想が2月で固まるということで、先生がおっしゃられるとおり、ここがちがちに決めるわけではなくて、基本計画ができたときには当然構想も変わってくる可能性は十分考えられますので、そのあたりは柔軟に対応させていただきたいと思っております。

佐藤委員	<p>佐藤ですけれども、素人が質問して申し訳ないんですけれども、構想を見直すときにいわゆる現状認識の部分、前回いろいろなところで国政とか時代の潮流とか、それを基に、現状認識の下におそらく書いたと思うんですけれども、10年たって現状認識の変化というのがあって、おそらく何か新しい動きがあると思いますけれども、そこら辺の現状認識というのはどこでどのようにされて、どこで提示されるのでしょうか。</p>
事務局（秘書 企画課）	<p>第1次総合計画を作った平成18年から21年のときには、当時は、高齢化はありましたけれども、人口減少、少子化というのがなかなかまだ議論が全国的にされてない状況でして、先ほどどなたかが挨拶の中で言われた、人口が増加している計画になっております。これからは生産年齢人口も少なくなってきましたし、少子化、高齢化、高齢化に伴う社会保障費の増大と、税収が減ってくるということを総合的に考えて、今後の第2次は考えていく必要があるというスタンスが、経済情勢が多少平行だったのか、右肩だったのか分かりませんが、今は右肩下がりですので、そのあたりを踏まえての計画になってこようかと思います。</p>
佐藤委員	<p>それは第2回の審議会のときに現状認識として示していただけるということで。</p>
事務局（秘書 企画課）	<p>そうですね。第2回ときにはそういった内容のものをお出ししたいと思います。</p>
鈴木委員	<p>愛知県の鈴木ですけれども、スケジュールのところを見せていただいて、土地利用構想というか、ゾーニングというんですかね、そういったものは既に今後10年間を見通したものがきちんとあるのか、あるいはそれも併せて基本構想の中で決めていくのか、どちらのスタンスなのかというところを確認したいんですけれども。</p>
事務局（秘書 企画課）	<p>お答えさせていただきます。本年度と来年度につきまして、都市計画課のほうで都市計画マスタープランも今の総合計画と一緒にタイミングで作っておりますので、都市計画課の策定中の都市計画マスタープランと歩調を合わせながら、情報共有しながら土地利用については盛り込みたいと考えております。</p>
鈴木委員	<p>開発もその中でやる。開発の計画は、住居系、あるいは企業系、いろいろあるかと。</p>
事務局（開発	<p>それにつきましても、マスタープランの中へ都市計画の流れで落とし込</p>

部長)	<p>んでというふうなことになるであろうと考えております。</p>
鈴木委員	<p>何でそんなことを聞くかといいますと、将来人口の推計をするときに、特に住居系の開発なんかというのは非常に重要な要素だと思うんですけど、それが併せて一緒にやっていくということになると、なかなかきちんと盛り込まれない中でということになっちゃうような気もするんですけど。</p>
事務局（開発部長）	<p>住居系につきましては、今、弥富市におきましては、市街化区域が結構まだ開発が残されているところもあるんですよ。実質上なかなか難しい面もございますので、住居系を増やすというのはなかなか厳しいのかなというようなところで、大きな変化というのはちょっと考えづらいかなとは思っておるところですけれども、その辺も併せて検討はするべきだとは思っております。</p>
市長	<p>何回も発言して申し訳ないんですけども、先ほど私、入江先生のお話を非常に興味を持って聞かせていただいたのは、基本構想に従来の現行計画の進捗状況だとか確認も含めてやっていくわけでございますけれども、それが4カ月ほどかかっている。そして、その次の段階での基本計画、来年度になるわけですけれども、そのスケジュール表によると、多分4カ月ということのスケジュールは押さえてあるわけでございますけれども、実際は基本計画のところドンパチドンパチやらないと、実施計画の中でどういうものを選択していくんだということが見えてこないと思うんですよ。</p> <p>だから、私も同じような意見なんですけれども、基本構想はもう少し短縮しながら、基本計画の部分でしっかりと時間を取っていただきたい。審議会が開催される日程が7回全体で書いてありますけれども、もしそれで足りなければ、先生方、あるいは各委員の皆様方にもお願いをしていくというようなスタンスがないと、基本計画が詰め込めないというようなことにもなりかねないものですから、ぜひ基本計画の時間を大きく取っていただければというふうに思っております。</p>
林委員	<p>私も実は業務として近いことをやっているのですけれども、その中でよく感じられるのは、先生方の意見とかなりかぶるんですけれども、実効力を上げようとした場合に、行政だと職員の力はすごく重要なんですけれども、予算なんですね。実効力を付けるとしたら、裏前提で予算がないと何もできないので、そうすると、評価の部分もそうなんですけれども、どれぐらいお金を使ったのか、計画だとどれぐらい使うのかといったところで、そういうことになると、おそらく長期の財政計画とのリンクというのも必</p>

林委員	<p>要になると思いますし、あと、先ほど市長さんがおっしゃられていましたけれども、最近公共施設等総合管理計画を出されたと思うんですけども、インフラだと 50 年、60 年のスパンという話になるので、そこのリンクというのは必要なのかなと思っております。</p> <p>意見じみたことになるんですけども、ぜひ予算とどういうふうな関わりをするのかとか、実際に評価、修正は予算との連動というのにも必要だと思いますので、そういうところも見えやすくしたほうが、成果指標だけだとやりましたと。でも、それが本当は実際に市の人は頑張ったり、市が何かやって評価が上がったのか、そもそも自然的に達成されたのかよく分からない状況になってしまいますので、できれば予算との連動というところも意識してやっていただけるといいなというふうに思っております。すいません、ちょっと意見になりました。</p>
会長	<p>それでは、今の林さんのご意見についてですけども、評価の段階で予算面というのはどう考慮する予定なのか、あるいは、ほかとのリンクでやっていくということについて、事務局のほうでご回答をお願いいたします。</p>
事務局（秘書 企画課）	<p>先ほどの毎年実施計画を見直す、毎年見直すんですけども、シートとして結果も、1 年前の実施した事後評価にはなるんですけども、事後評価という形でどこまで達成したかというのを見ることによって、そのシートを予算要求、あるいはその後査定のときに、財政当局がそういった指標を参考にすれば、予算との連動性というのは可能かと思っておりますので、ご意見ということで検討させていただきたいと思っております。</p>
会長	<p>それでは、ほかにご質問、ご意見等ございませんでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、無いようですので、次第の 7、その他について事務局からお願いいたします。</p>
事務局（秘書 企画課）	<p>7 その他</p> <p>ありがとうございました。事務局より 2 点連絡事項がございます。</p> <p>1 点目につきましては、次回第 2 回弥富市総合計画審議会につきましては、先ほどもご説明のほうにありましたように、アンケート結果ですとか現状の分析、実施計画の評価ができた段階で開催させていただきたいと思っておりますので、10 月から 11 月ということで予定をしておりますので、また日程が決まりましたら皆様に改めてご通知のほうを出したいと思っております。</p> <p>2 点目としましては、挨拶のときにもありました、入江先生からありました、12 月 9 日の土曜日午前 10 時からなんですけれども、まだイベントの名前は決まっておりませんが、仮称ということで市民向け総合計画策定</p>

事務局（秘書 企画課）	<p>セミナーというものを開催しまして、愛知大学さんの政策提言の発表会と、有識者の方によります基調講演を2時間半程度の行事を予定しておりますので、またこれも決まりましたら審議会のほうでご説明のほうをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上となります。</p>
会長	<p>それでは、最後になりますが、本日の審議会の全般について、何でも結構ですので、委員の皆さんの中で何かご意見、ご要望等ございましたらご発言をお願いいたします。よろしいですか。</p> <p>それでは、ご意見、ご要望等も無いようですので、これで議事を終了したいと思います。慎重な審議をしていただきましてありがとうございます。ここで進行を司会者に戻したいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（秘書 企画課長）	<p>8 閉会</p> <p>どうもありがとうございました。大変貴重なご意見を真摯に受け止めさせていただきたいというふうに思っています、今後につなげていきたいと思っています。</p> <p>本日は、釜田会長をはじめ各委員の皆様、大変お疲れさまでございました。本日は、公私ご多忙の中当審議会にご参集いただきまして、また、貴重なご意見を賜りまして大変ありがとうございました。以上をもちまして第1回弥富市総合計画審議会を閉会とさせていただきます。委員の皆様、どうもありがとうございました。</p>